

キッチン

作者の選択についての分析

典ちゃんと栗ちゃんの登場

典ちゃんと栗ちゃんは、仲良しなみかけの一年先輩の職場の仲間。
作中二人の登場後、雄一のクラスメートの奥野さんが仕事場にやってくる。

P95.L15
二人はひかえめで親切で
がまんがきく性格を持っている。

P95.L9 彼女たちと共に働くことは～
心の安まる楽しいことだった。

典ちゃんと栗ちゃんの設定

①二人の性格が穏やか

雄一のクラスメートの奥野さんの自己中心的な考え方

⇒二人のみかけを常に気にかけてくれる優しい気持ち が対照的
みかけは、仕事を心の安まる楽しいことと考えている。

→二人が登場することで、仕事場の穏やかな雰囲気を感じさせ、

その後奥野さんが仕事場にやってきた修羅場のような場面に変わるインパクトを与える効果。

②二人がみかけとかけ離れた人生である

奥野さんは、自分とは違うみかけを妬んでいる

みかけは、自分とは違う二人のことを妬まない ところが対照的

P82.L10 自分の人生を嫌悪する

P95.L6 自分とこんなにかけ離れた
人生の人たちでも、
二人がとても大好きだった。

→みかけの余裕を感じさせる。

奥野さんがヒートアップしても、みかけは、常に冷静だった。

P98.L12 田辺くんに気持ちを～
P99.L9 もう、～あなたがいると
田辺くんはどこにも行けないんです。

↓

自分はみかけのせいで恋を諦めた

シンボルについての分析

| みかけ 台所を語る |

桜井みかげにとってのキッチン

私にとって台所は、
食事を作る場所であり、
この世で一番好きな場所ですね。

P9.L1 私がこの世で一番好きな場所は台所だと思う。
L2 ~台所であれば、食事を作る場所であれば~

私の生きる全ての場所で、
きっとたくさん夢のキッチンをもつ
と思います。
それは、ひとりでかもしれませんし、
大ぜいや、二人きりで。

P61.L10 夢のキッチン。
~心の中で、あるには実際に。
~ひとりで、大ぜいで、二人きりで、
私の生きるすべての場所で~もつだらう。

田辺家の台所を好きになったのは、
よく使われている台所だったから。
使われていない台所は
好きじゃないので。

P9.L3 ~よく使い込んであるといいと思う。
P16.L14 ~よく使い込まれた台所用品
P17.L4 小さな冷蔵庫~入れっぱなしのものがなかった。
P79.L13 この台所は~使われていないのかもしれない、
~薄汚れて暗かった。

台所が好きなのは、
自分が生きていること
を感じられるからだと思います。

P82.L17 ~自分がいつか死ぬということを感じ続けていたい。
でないと生きている気がしない。だから、こんな人生になった。

人生とは、キッチンのようなものである。

キッチンは、人生の**比喩**

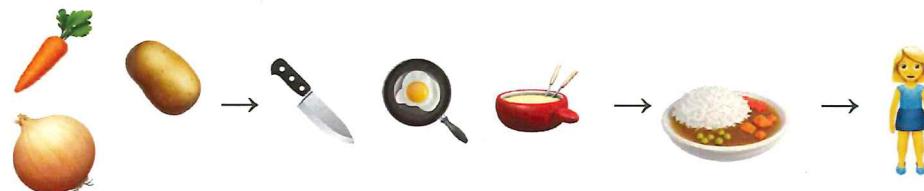
みかけは台所に立つことで、自分がいつか死ぬこと、いま生きていること、を感じている。

なぜそう感じる？



人が生まれ、さまざまな経験をして死ぬ過程とキッチンで行う料理を作る過程が似ているから。

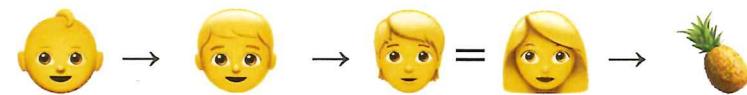
台所



台所では光を出す食べ物がさまざまな工程を経て、人に食べられ光をなくす。

P88.L16 食べ物も光を出す～食べると消えちゃうだろう？

えり子さんの人生



人生では、生まれ、さまざま経験をし、輝いていたえり子さんが、亡くなる。

= えり子さんは、そこに輝く太陽だった。 (過去形)

| みかけ 台所を語る |

使われていない=料理が作られていない
=食べ物の光がない（輝いていない）=
えり子さんが亡くなった後の田辺家の台
所を暗く感じた。

人生に当てはめると、生命の活動が
止まっていることを表している。
だからこそ、汚い台所が好き。

このキッチン

田辺家の台所を好きになったのは、
よく使われている台所だったから。
使われていない台所は
好きじゃないので。

P79.L13 この台所は～使われていないのかもしれない、
～薄汚れて暗かった。

私の生きる全ての場所で、
きっとたくさん夢のキッチンをもつ
と思います。
それは、ひとりでかもしれませんし、
大せいや、二人きりで。

P61.L10 夢のキッチン。
～心の中で、あるには実際に。
～ひとりで、大せいで、二人きりで、
私の生きるすべての場所で～もつだらう。

キッチン=人生だとすると、
みかけの生きるすべての場所で、
いろいろな人の人生を見ることを表現。

私たち生きるすべての場所で、
私たちは色々な人と出会い、その人の人生の一部に関わることになる。
その人生は、まだ途中の人生かもしれないし、人生の最後の死に関わることになるかもしれない。

作者はキッチンをシンボルにすることで、
私たちが出会っていく、人の**人生や死**を表現したかった。

人物のものの見方の変化についての分析

田辺家のソファ

みかげは田辺家のソファを初め
視覚的、触覚的な感想をもち、

P24.L16 「本当にここで眠っていいの？」
と雄一に確認するほど、他人の所有物という見方
をしている。

しかしその後、そのソファをみかげは台所のよう
に愛し、私のソファと呼ぶようになる。

えり子さんの死後、
ソファになつかしさで苦しさを感じている。

→雄一やえり子との関係が変化する
ことでソファの見方が変わっている。



※関係Lv.

みかげと雄一、えり子さんの関係
1～3までのレベルで
数が大きくなるほど、関係が濃いという意味。

初めて田辺家に行った時
関係Lv.1



田辺家 居候期間
関係Lv.2～3

P15 巨大なソファ
本当に立派なソファ
P16 柔らかなソファ
P24 ソファは心地良かった

P32 その台所と同じくらい
田辺家のソファを私は愛した。
P57 ～すわってな。私のソファに。

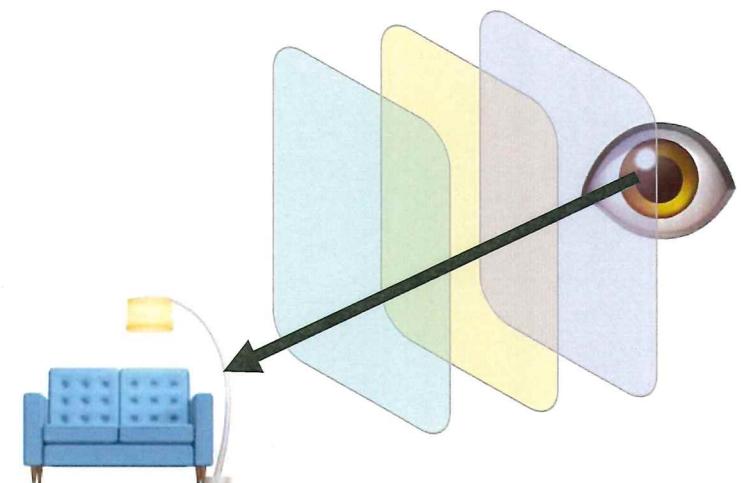
えり子さんが亡くなった後
関係Lv.2

P76 なつかしさで苦しいソファに
横たわる。

人物のものの見方は**周囲の人と関わりと思い出**によって変化する。

私たちは、周囲の人の関わりと思い出をフィルターとして使って
ものを見ている。

田辺家のソファは、最初から最後まで、単なるソファだが、
雄一やえり子さんとの思い出がみかげにソファの見え方を
変化させていたと考えられる。



ありがとうございました！

